曽於文藝（うたごよみ）

「題字」
末吉文化協会会員
瀬戸口　淳民氏

俳句

末吉俳句会

高きへと鷹への期待高めつつ　川崎　多恵子
法師蟬鷹待つ人に遠くあり　瀬戸内　紀子
風統ぶる空の道なり鷹の行く　泊　康

大隅俳句会

何気なく夜空見上げし十三夜　逆瀬川（さかせがわ）　節子
水桶に置きて又よき曼珠沙華（まんじゅしゃげ）　岩重　みどり
新秋の牛つやつやと品定め　大川　満
田の神へ続く畦道彼岸花　福村　よう子

短歌

末吉短歌会

肺炎に強く生きよと天のこゑ
点滴四本しづかに落つる　草野　ミツ子

眼を閉ぢて虫よけスプレー身にかくる
時し思ひぬ耳なし芳一　泊　康
青眼に迎へたき人訪れず
セキュリティ厳しく猛暑を過ごす　宝蔵　弘二

大隅短歌会

足許にひんやり冷えの透る朝
庭にわくら葉音なく落つる　川辺　玉枝
地の中で夏を過ごして丈高き
雑草の中彼岸花咲く　川辺　敦子
亡き夫の嘆きの声の聞こえたり
腰丈に伸ぶ草の畠に　西山　美代子

財部短歌会

朝涼みセミとうぐひす共に鳴き
時の移ろひふと感じたり　脇丸　洋子
諍ひはクーラー入れるの入れないの
猛暑の日々を如何にすごすや　川俣　若
大丈夫コスモス起こし土を寄せ
去りし嵐の爪あと探る　永岡　冴子
久方に台風来りなば何としよう
付き合ひ忘れてセンターに逃げゆく　橋口　貞男

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

俄雨奴（さだつわろ）　全部濡（スパッぬ）らけっ
ひん逃（に）げっ　桐野　奈世
俄雨（さだつあ）め　牛（べぶ）も細目（ほそめ）で
喜（よろく）ぎょっ　古川　一幹
俄雨言（さだつちゅ）が　見限（みかぎ）っならん
裏（うら）ん崖（ずべ）　鈴木　一泉
俄雨（さだ）ち遇（お）っ　逃（に）げ先（ざ）かなかじ
濡（ぬ）れ鼠（ねず）ん　浜田　一好

大隅薩摩狂句会

先（さ）か無（な）かて　面倒（めんで）くせこちゃ
後（あ）て回（ま）えっ　神宮司　素水
今（ば）かあち　化粧（けしょ）ん仕方（しかた）を
婆（な）が習（な）るっ　西山　美代子
長（な）げ坂（さか）も　愛情（ぼんの）があって
続（つ）じた夫婦（みと）　福元　多喜子
晩酌（だいやめ）を　愛情（ぼんの）じゃっでち
薄（うす）う割（わ）っ　境　すやすや